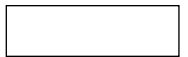


## 間違った描き方事例のご紹介（2級）

各級とも、全国的に多くの受験者の方が共通して間違える箇所や誤った描き方が見られます。  
ここでは2級の作図の際、とくに注意しなければいけない箇所についてご紹介します。



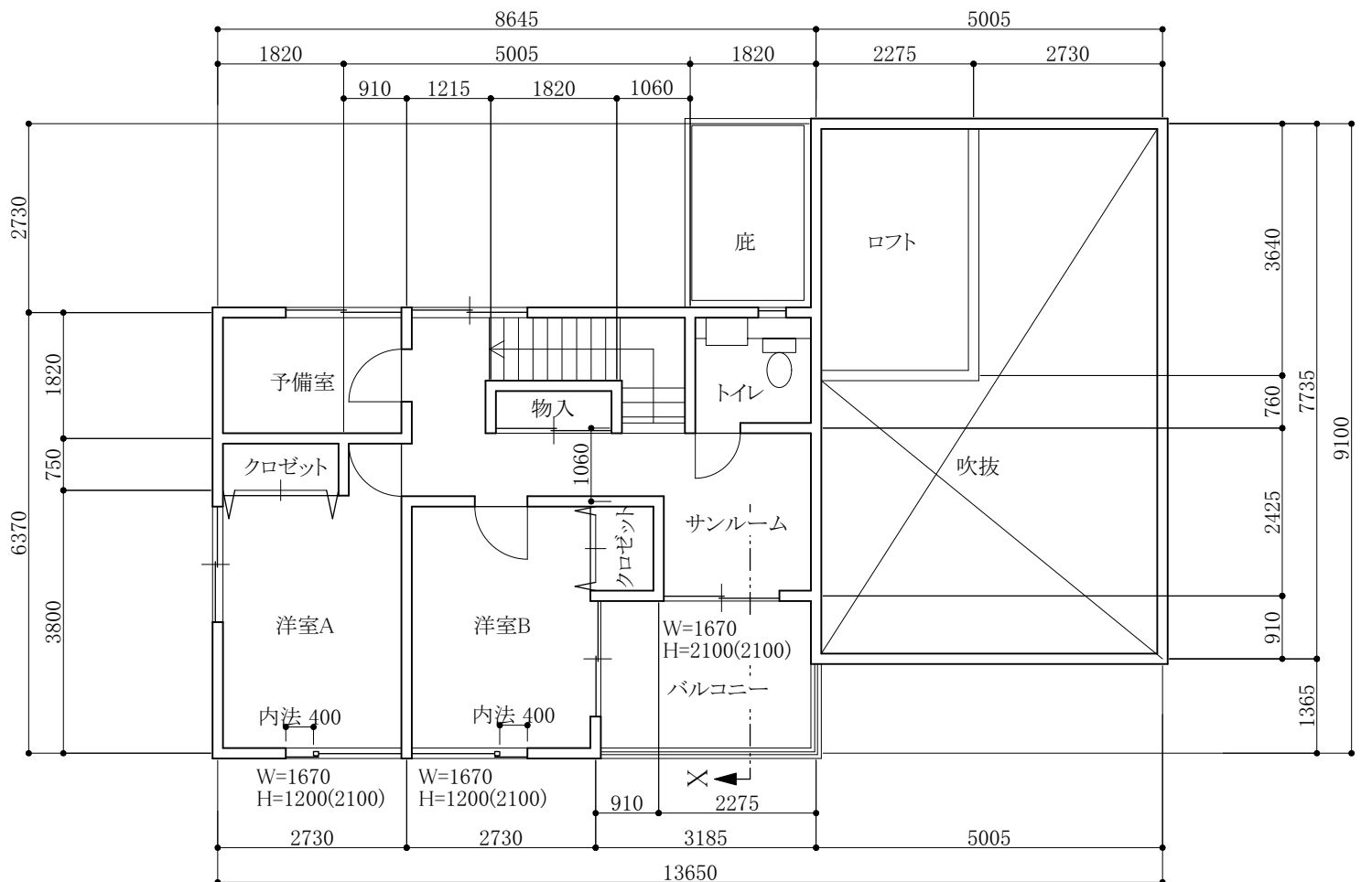
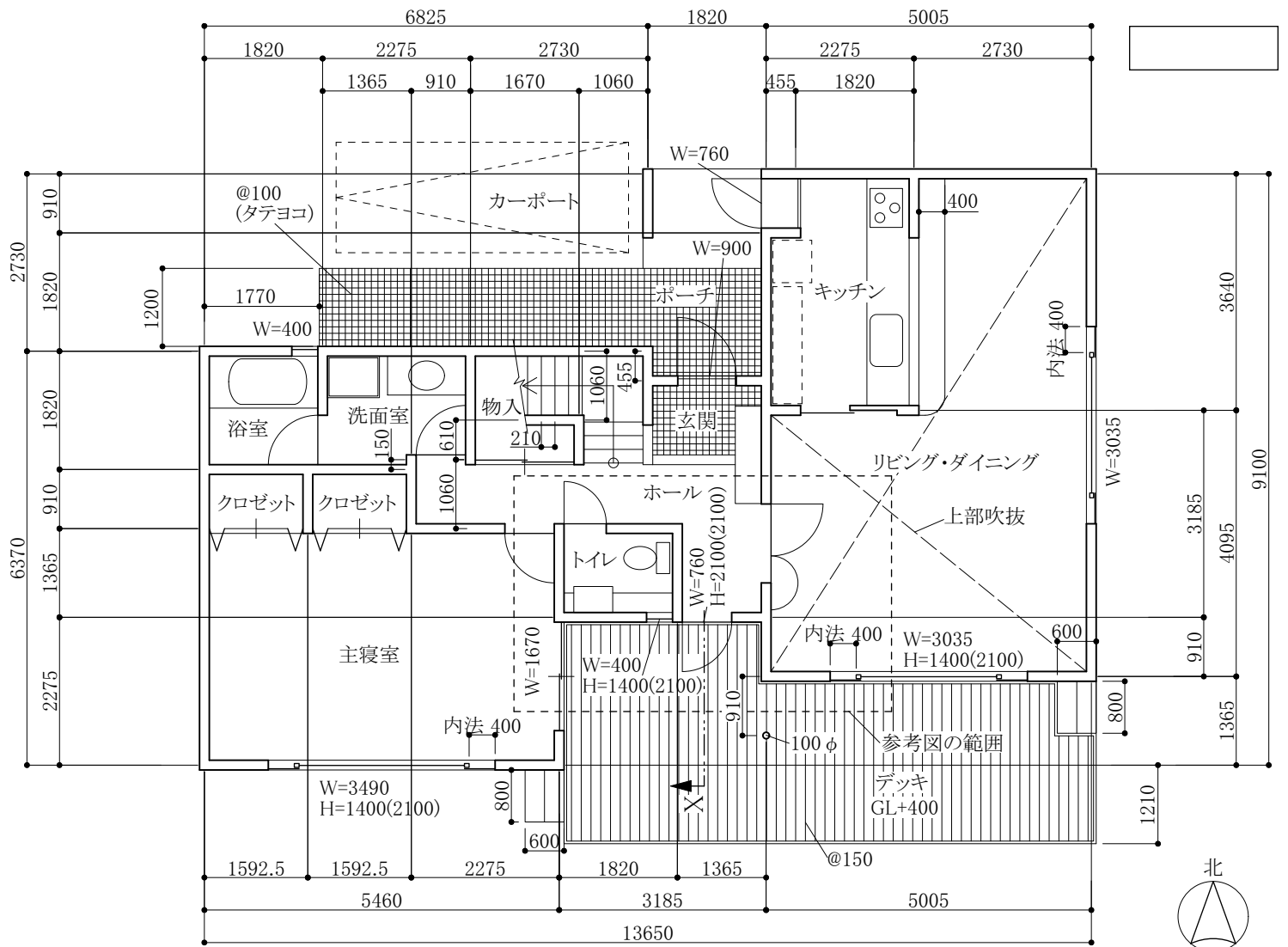
## 問題

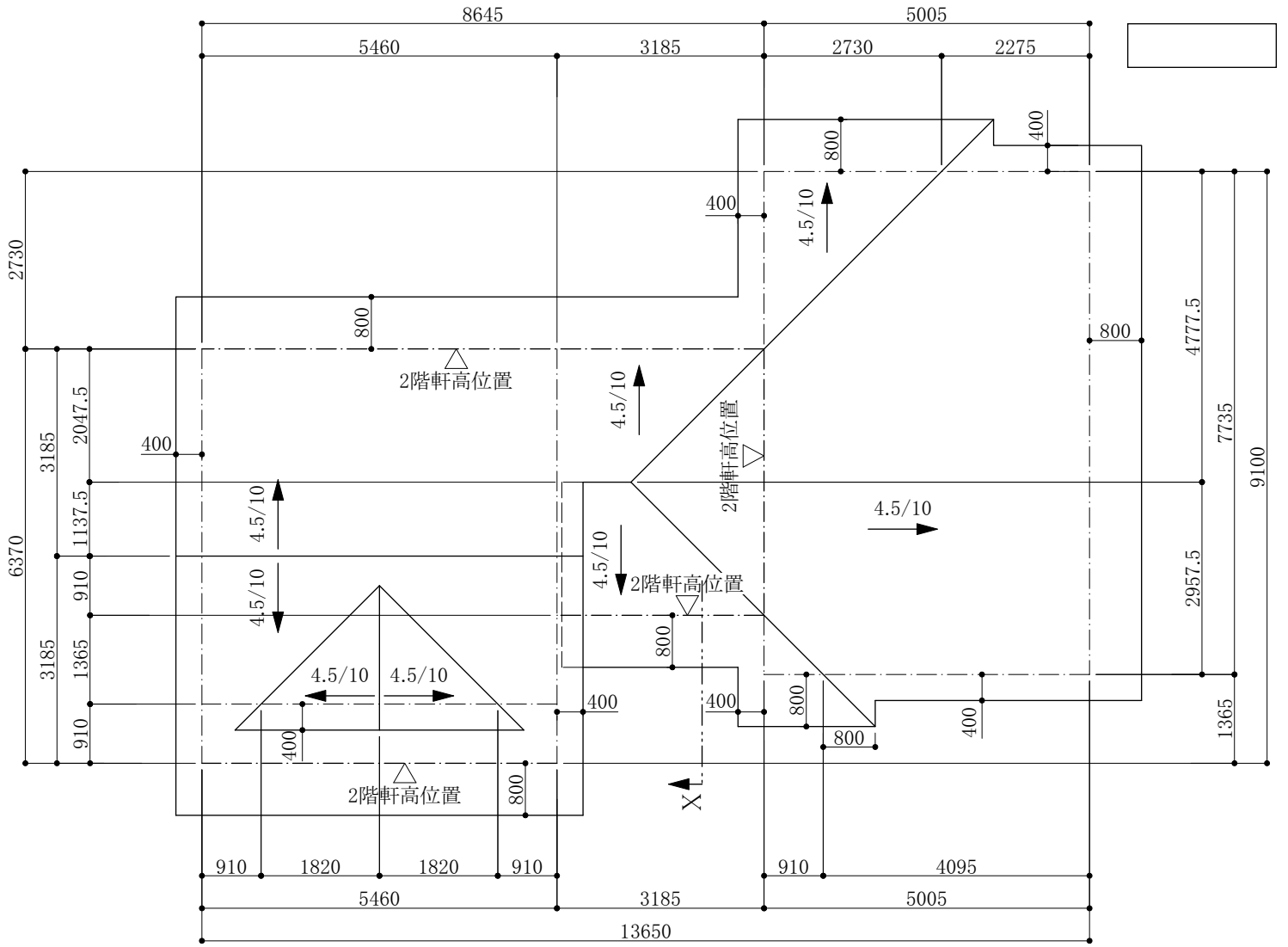
1. 1階平面図をもとに1階の平面詳細図を縮尺1/50で作成せよ。
2. 各図面をもとに南立面図を縮尺1/50で作成せよ。

## 補足説明

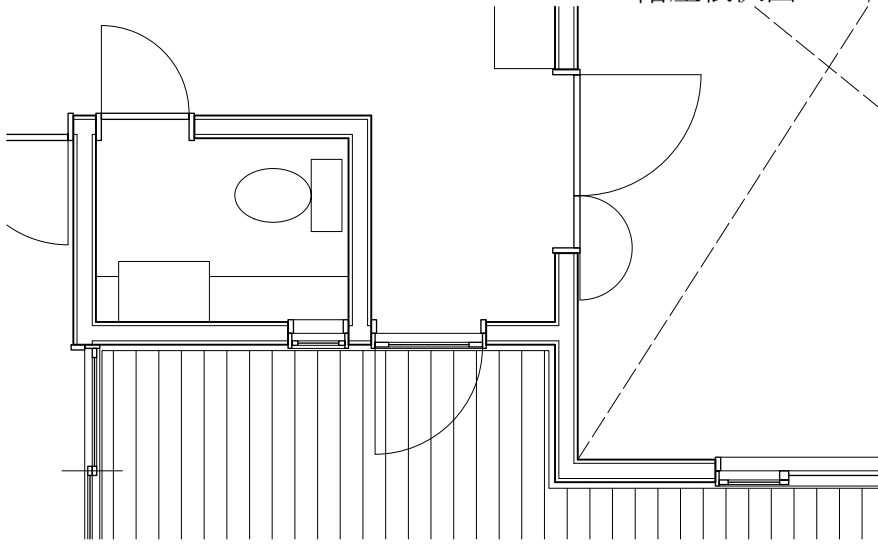
1. 用紙サイズはA3判(横使い)とし、平面詳細図で1枚、立面図で1枚の計2枚を使う。
2. 平面図に記入するものは以下のとおりとする。
  - ・平面図(S=1/100)にある壁や建具および自動車や設備機器などの形状。
  - ・平面図にある寸法。ただし壁の位置を示す寸法で、建物の外部にある寸法のみを記入すること。
  - ・平面図にある室名と「上部吹抜」という文字列。
  - ・ポーチ・玄関・デッキのハッチング。
  - ・図面タイトル「1階平面詳細図 S=1/50」。
3. 平面詳細図の図面密度は参考図程度とする。
4. 各図面でサイズを指定していない部分は、適していると思われる位置/サイズで描くこと。
5. 壁厚は構造体厚を100mm、仕上げ厚を25mm(両面で50mm)とし合計150mmとする。
6. サッシはアルミ製とし、見込み寸法は100mmとする。
7. 平面図のサッシ部(および開口部)に記入してあるH=1400(2100)の「1400」はサッシの高さで、( )内の数値は床から測ったサッシ上端(開口上端)の高さである。W=3490はサッシの幅を示す。なお、サッシの幅と高さは躯体の開口寸法である。
8. 立面図に関する注意事項を以下に記す。
  - ・必ず記入しなければならないものはGL(地盤線)、基礎、壁、建具、屋根、デッキ、デッキ階段、床下換気口(400×150)、バルコニー手摺および図面タイトル「南立面図 S=1/50」。
  - ・樋は記入しなくてよい。
  - ・屋根の棟の包み金物は記入しなくてよい。
  - ・寸法および屋根勾配は記入しなくてよい。
  - ・サッシの下枠が水切りを兼ねるものとする(水切りを別部材として描く必要はない)。
9. 平面詳細図と立面図は直線、長方形、円弧、円、楕円を用いて描くこと。すなわちシンボル・部品図形・自動作図、ブロック、ライブラリなどの使用を禁じる(便器は楕円だけでもよい)。
10. 2枚の図面の両方とも、受験番号と氏名を図面右下部分に記入すること。
11. 平面詳細図と立面図のCADデータは別ファイルとする。
12. 保存ファイル名は、受験番号に平面詳細図:hei、立面図:rituを加えたものとする。(例:1234567hei, 1234567ritu)
13. 監督者が指定するメディアに解答図面データ(2ファイル)を保存し提出すること。なお、いずれの1つでも解答図面データが無い場合は、採点対象外になる。

以上

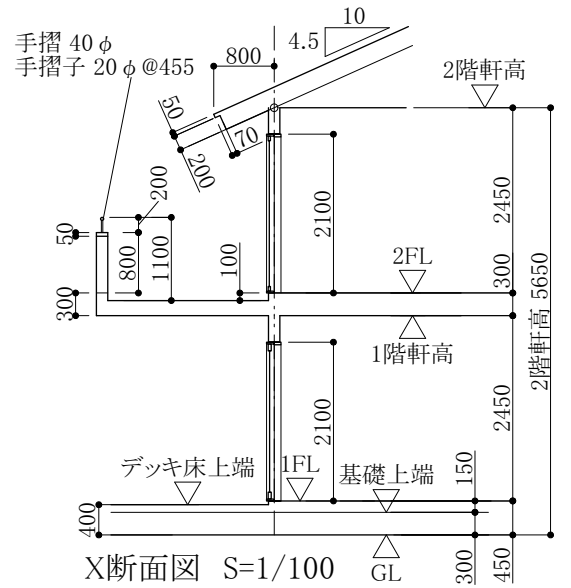




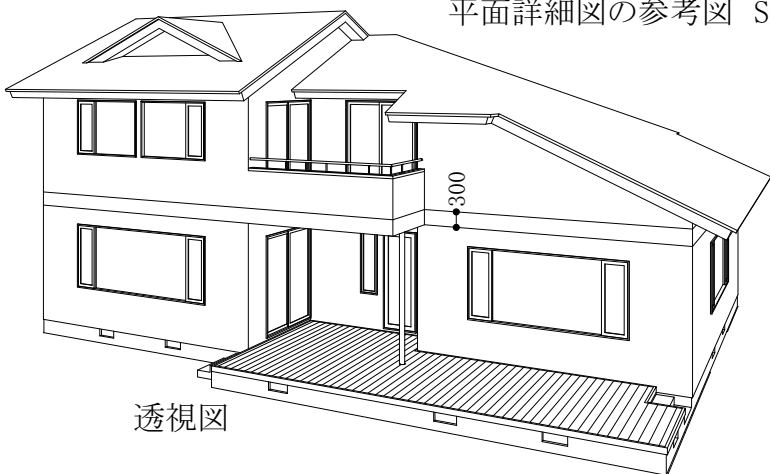
2階屋根伏図 S=1/100



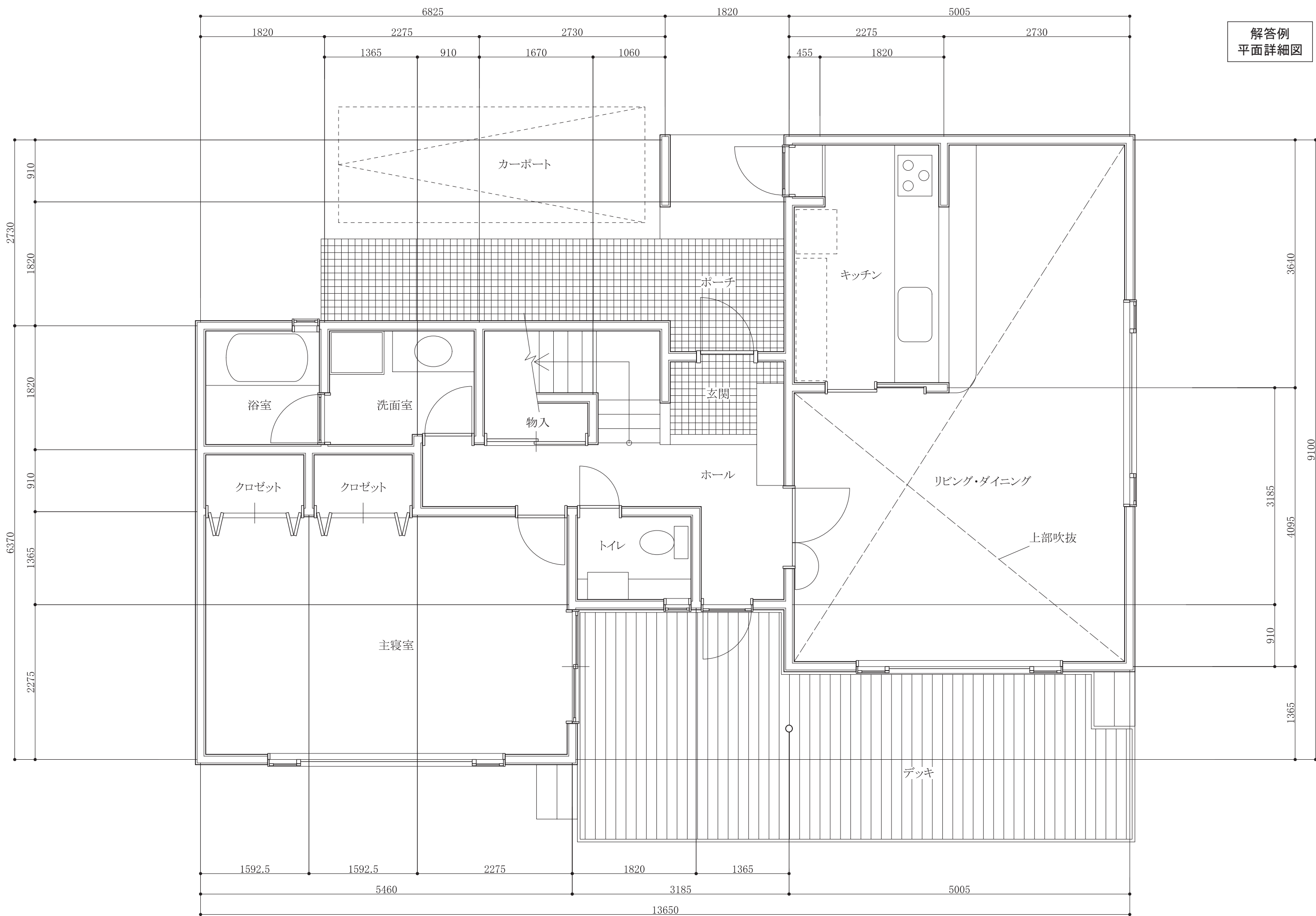
平面詳細図の参考図 S=1/50



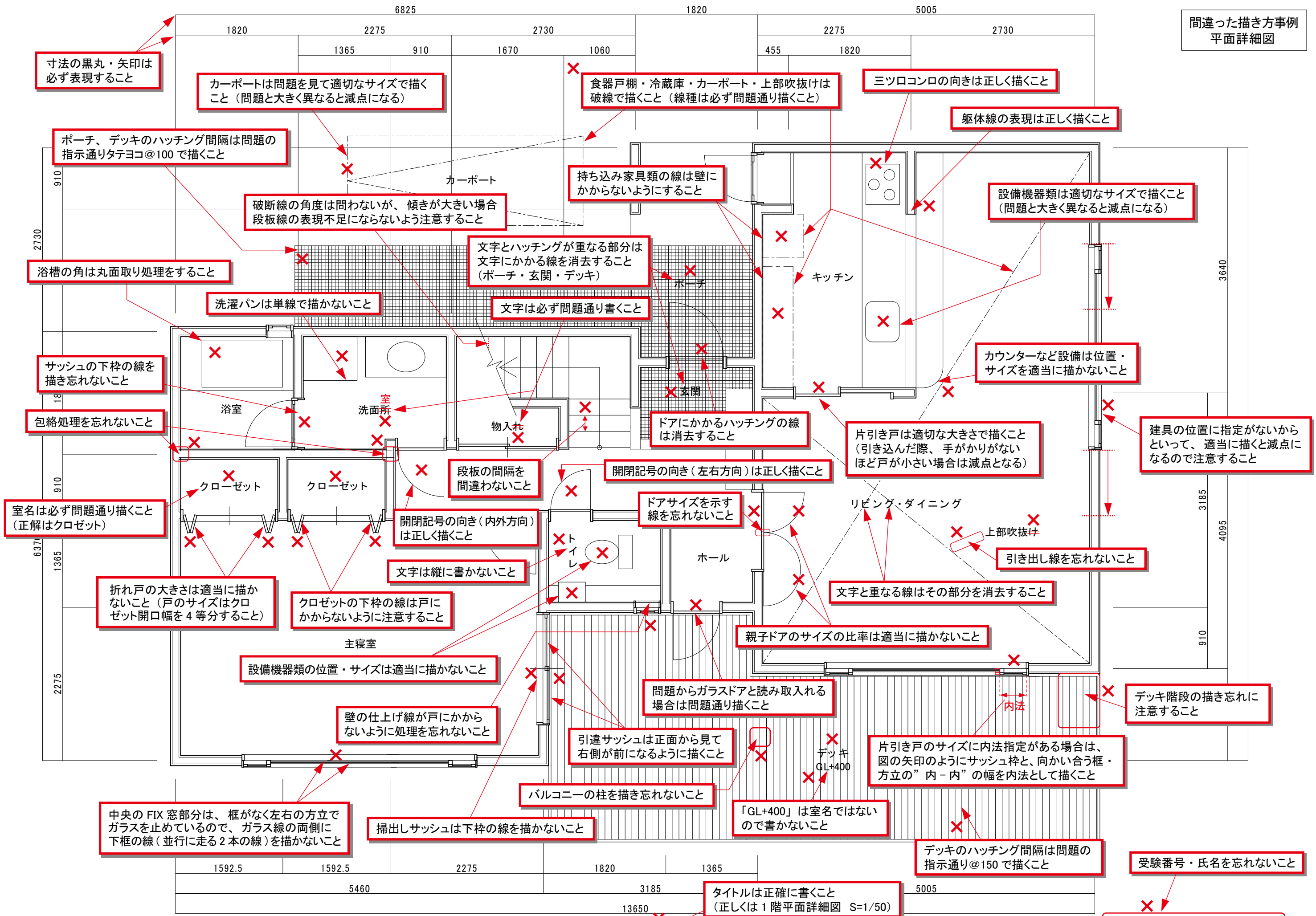
X断面図 S=1/100



透視図



1階平面詳細図 S=1/50

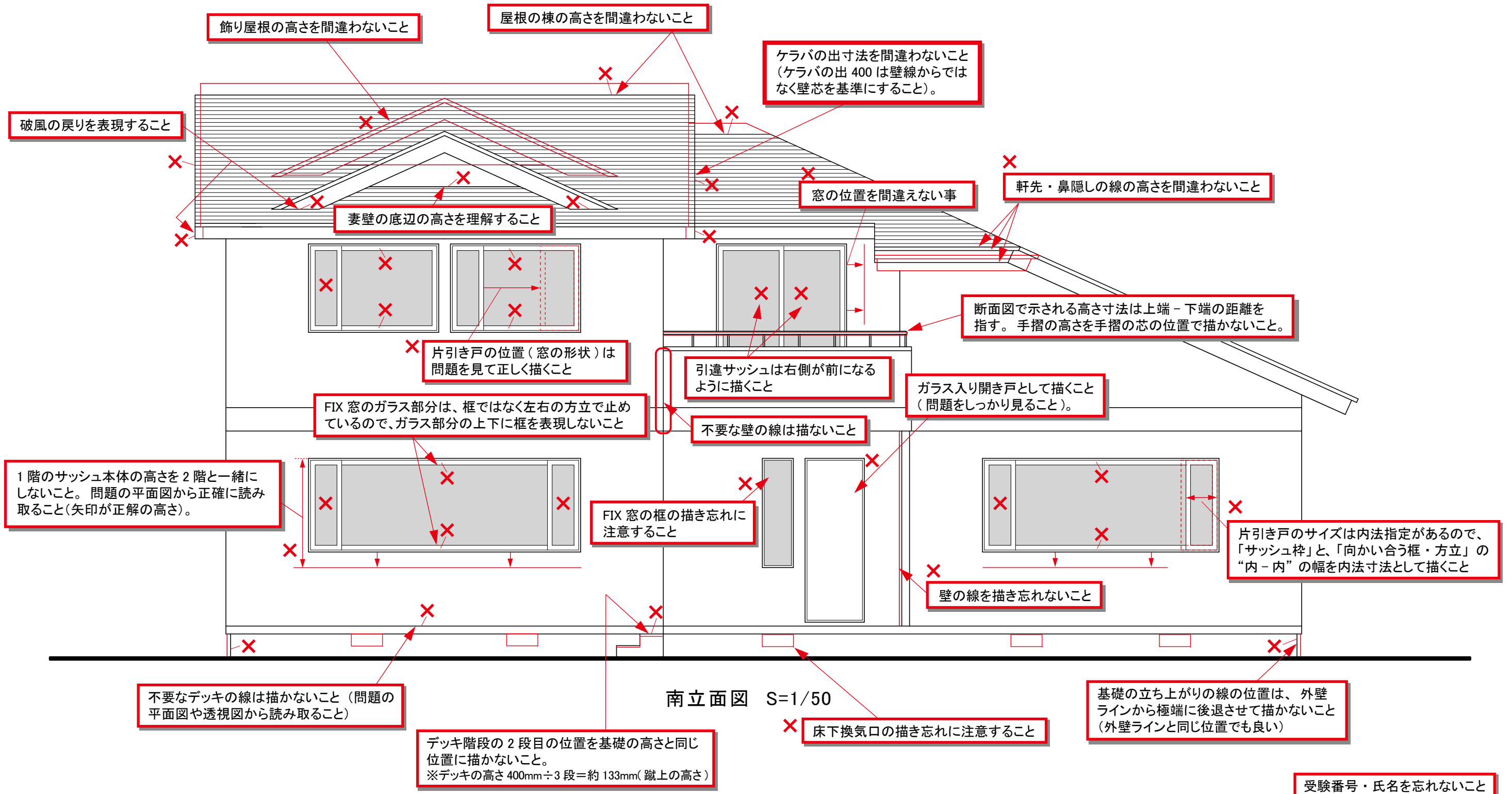


1階平面図 S=1/50



南立面图 S=1/50

●赤い実践・破線は正解の位置を示します



受験番号・氏名を忘れないこと